

日本脳炎（1期）ワクチン定期予防接種のお知らせ

予防接種法に基づく定期予防接種を実施します。予防接種はお子さんを病気から守るため、また周りへの感染症の拡大を防ぐために必要なものです。予防接種の目的や内容をよく理解した上で、お子さんの体調の良い時に受けましょう。

1 対象年齢 生後6か月から7歳半の日の前日まで

2 標準的な接種期間 1期初回：3歳に達した時から4歳に達するまで
1期追加：4歳に達した時から5歳に達するまで
※データ管理のため、3歳前に接種した場合はご連絡ください。

3 接種回数・間隔（標準的な接種期間を過ぎた場合も、接種間隔をあけて合計3回接種してください）

1期	初回：2回	6日以上の間隔をあけて2回接種（標準的接種間隔：6日～28日）
	追加：1回	初回接種終了後、6月以上の間隔をあけて1回接種 （標準的接種間隔：おおむね1年）

4 接種場所 別紙「予防接種協力医療機関」の日本脳炎に○印のある医療機関
※医療機関に予約をしてから接種してください。

5 持ち物 予防接種予診票（伊那市発行のもの）・母子健康手帳

6 費用 無料（公費負担）※対象年齢を過ぎると実費になります。



裏面をご覧ください

7 日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。

飼育されているブタの体内で増えたウイルスが、蚊（コガタアカイエカ）によって媒介され感染します。潜伏期は7～10日で、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん等の症状を示すウイルス性の急性脳炎です。ヒトからヒトへの感染はありません。

感染した人のうち、100～1,000人に1人が脳炎を発症すると考えられています。脳炎を発症した場合の致死率は約20～40%で、特に乳幼児や高齢者では死亡のリスクが高く、神経系の後遺症を残す人が多くいます。

近年、西日本の高齢者を中心に発症していますが、若年者の発症も見られます。

8 予防接種の効果

日本脳炎予防接種は、第1期の初回2回、追加1回の合計3回の接種で基礎免疫がつき、病気を防ぐための十分な抗体ができると言われています。3回の接種で基礎免疫をつけることが大切です。

9 ワクチンの副反応

主な副反応は、発熱、せき、鼻水、注射部位の腫れなどです。ごくまれに、ショック、アナフィラキシー様症状、けいれん、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）などの重大な副反応が起こることがあります。令和6年9月までに医療機関から報告されている重篤症例の発生頻度は、0.0007%です。

（令和7年1月第105回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より）

10 接種上の注意

- 日本脳炎2期の予防接種は9歳の時に通知されます。
- 1回の接種量は通常0.5mlですが、3歳未満は0.25mlとなります。



R7.4.1

＜お問合せ先＞伊那市役所健康推進課予防係 電話0265-78-4111 内線2332